

平素より、患者さんのご紹介をいただき、有難うございます。
当院では、予約制で診察を行っております。
患者さんのご紹介に際しましては、紹介状をご用意いただき
お取りいただきますよう、お願い申し上げます。

事前に必ず予約を

医療機関からの予約は 地域連携直通電話・FAX へお願いします。
TEL: 047-458-6543 FAX: 047-458-6545

- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～11:30
※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 休
- ・ 時間外の場合はFAXを送信してください。翌受付時間内にお返事いたします。

患者さんからの予約は 電話予約センター にて承ります。
予約センター電話番号: 047-458-6600 (患者さん専用)

- ・ 最初に音声ガイダンスが流れます。紹介状をお持ちの患者さんは1を押していただきます。
- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～12:00
※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 休
- ・ 予約時間等の変更時にも、必ず電話にてご連絡ください。

■検査連携について

- ・ 検査連携は、医療機関からの依頼のみの受付になります。直接、患者さんからの受付は出来ません。
- ・ 連携検査: CT、MRI(単純)、RI、X-P、マンモ、骨密度、セファロの画像検査のみ

■やちよ夜間小児急病センターについて

- ・ 専用電話番号: 047-458-6090 (医療相談は行っていません)
- ・ 受付時間: 18:00～23:00
※予約は必要ありませんので、直接ご来院ください。

当院のエコプロジェクトが表彰されました!

八千代医療センターは、関東経済産業局より、省エネルギーへの貢献が顕著であったとして「平成25年度エネルギー管理優良事業者等の関東経済産業局長表彰」を受けました。

受賞の決め手となったのは、空調システムにおいて水蓄熱槽の冷暖房切替時1500トンの水蓄熱槽を満蓄熱にするための消費電力を低減するために、春秋に放熱運転を徹底し、逆に蓄熱運転開始時には放熱ポンプ運転停止等の運用改善を行い、水蓄熱槽の水温をあらかじめ20℃に調整しておき、大きな電力を使う空冷ヒートポンプチラーの運転時間を削減するなど電力使用量の合理化を図ったことが高く評価されたものです。今回の局長表彰を受けた12事業者のうち病院施設は当院を含む2事業者のみでした。「一般的に省エネルギー対応が難しいと考えられる病院において、大幅な省エネルギーを図った」が表彰の理由となりました。これからも貴重なエネルギーを有効活用できるよう努力を続けて参ります。

(エコプロジェクト委員会委員長・施設課長 清水 洋治)
業務協力: ジョンソンコントロールズ(株)
日本空調サービス(株)



左: 清水課長 右: ジョンソンコントロールズ 藤本マネージャー

2014.3
発行

greens

ぐりーんず

第12号

理念: 地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

～基本方針～

- ・ 本学の理念である「至誠と愛」に基づき、皆さまに信頼される病院を目指します。
- ・ 患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。
- ・ つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。
- ・ 患者さんに合った最善のチーム医療を行います。
- ・ 中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し皆さまの健康を維持・増進します。



皆様にはいつも暖かいご支援、ご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

八千代医療センターも開院後8年目を迎えました。

現在の医療局についてご紹介をさせていただきます。平成18年12月8日開院当初、常勤医師数は74名、非常勤医師52名でしたが、毎年徐々に医師数が増加して、平成26年3月1日現在、常勤医師数161名、非常勤医師104名とほぼ倍増してきました。診療科数は34科になり、多くの分野の診療が可能になってきました。医師数は増加してきていますが、異なる診療科でも互いの顔が見え、直接の相談や密接な院内連携が共有できるように、すべての医師は同じ医療局の部屋の中に各自の席を持っており、風通しの良い医療局体制を構築、維持しています。また、本院との連携を密接に行ない、定期的に医師がローテーションしている科も多くみられます。新規に当院に赴任した医師に対しては、オリエンテーションを行い、当院の理念、基本方針、電子カルテシステム、当直システム、各種書類作成などについて指導しています。

また、しばらく非常勤体制で診療を行っていた耳鼻咽喉科に、平成26年4月より常勤の医師が1名赴任することになりました。

さらに質の高い医療を提供することができると期待しています。

毎月開催されている合同カンファレンスやCPC (Clinico-pathological conference)に加え、多職種とのカンファレンスを行い、情報の共有、情報伝達の円滑化を図る所存です。

地域の先生方、また、コメディカルの方々にご参加いただける各種研修会(セミナー、症例検討会、講演会など)もますます充実させてまいりたく存じます。ご多忙中とは存じますが、ぜひご参加をいただき、顔の見える連携を進めていきたいと考えております。

今後とも、当院との密接な医療連携のほどよろしく願いいたします。

副院長 船津 英陽

八千代医療センター 薬剤部の紹介 薬剤部部长 小坂好男

皆様にはいつも外来患者に継続した良質な医療の提供を賜り、心より感謝申し上げます。そして、開院以来、八千代市薬剤師会の皆様には24時間365日院外処方せんを応需していただき、心より感謝申し上げます。

今回の医療支援ニュースでは、薬剤部の紹介をいたします。

薬剤部は薬剤師が20名体制で勤務にあたっております。入院調剤・注射薬調剤部門、医薬品情報管理部門、病棟薬剤師業務部門に所属して業務を行っております。また、地域医療支援の一環として、医薬品の適正使用と情報の共有のための連携（薬-薬連携）にも力を入れております。

最初の連携は、八千代市薬剤師会との「薬-薬連携」に向けた活動を開始いたしました。新規に採用された医薬品の中から薬効をピックアップして、処方される当該領域の医師に「病態とその治療法」についてご講演を賜り、薬の適正な使用方法等について共有を図ることでした。開催を重ねることに合わせて、COPD治療における適正な薬物治療の一環として「吸入薬の正しい使用法」を啓蒙すべく「八千代吸入療法研究会」を医師、薬剤師そして看護師等の方々と立ち上げました。八千代市内の医療機関、保険薬局であればどこでも同じレベルの吸入指導が受けられることを活動の目標としております。世話人に勝田台病院、八千代リハビリテーション病院、八千代市薬剤師会及び八千代医療センターから、呼吸器内科医師、小児科医師、薬剤師が加わって活動しております。



一昨年からは、千葉県共用脳卒中地域連携バス計画管理病院協議会（CAMP-S）の薬剤師部門にも積極的に参加しております。千葉県共用脳卒中地域連携バスシートに「薬剤シート」を導入し、入院中の薬物療法についての情報の伝達として活用を始めました。

また、感染対策にも力を入れており、地域病院と感染防止対策の地域連携にも取り組んでいます。

今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。



●調剤・注射調剤部門 主任薬剤師 渡邊基之

I. 内服・外用・注射薬の調剤

外来患者の97.5%は院外処方せんを発行しております。医療安全上、調剤支援システムを導入して「既病歴と禁忌処方」「重複投与」「相互作用」の監査および薬歴の管理、散剤鑑査システムによる正確な散薬調剤を行っています。他にも患者の状態に合わせた処方薬の一包化調剤も行っています。もちろん「おくすり説明書」や「お薬手帳」を用いた情報も提供しています。

II. 無菌調剤

高カロリー輸液の注射剤（中心静脈点滴）の混注業務は全て薬剤部で調製しています。薬剤の相互作用を確認し、複数の薬剤師で調剤・監査を行ない病棟へ払い出しています。

III. 抗がん剤の監査・調製

注射抗がん剤に関しては、処方内容について個人ファイルを作成し、レジメンの投与量・投与間隔・生涯投与量などの適正使用に向けた薬学的監査を行った上で、外来化学療法ミキシングルームで混注業務を行っています。臨床検査値や吐き気止めなど抗がん剤の副作用に対する薬剤が適切に処方されているかどうかの確認も行い、化学療法が安全かつ有効に実施されるように努めています。



●医薬品情報管理部門 主任薬剤師 諸星総一



医薬品が適正かつ安全に使用されることを目的として、医薬品に関する情報を収集・整理し、医療スタッフに提供しています。また、これまでに医療スタッフから寄せられた薬に関する質疑応答内容をデータベース化し、医師や看護師等に迅速で的確な情報提供を行なっています。入院治療中の適正使用情報はもちろんのこと、退院時に提供する薬剤情報についてもデータベースの蓄積を行っております。抗菌薬や抗てんかん薬などの血液中濃度解析を行い、服用量・服用間隔・副作用などをモニタリングすることにより、薬物の適正使用に貢献しています。

●病棟薬剤業務部門 主任薬剤師 杉山栄美

薬剤師は、チーム医療の一員として患者のベッドサイドで治療薬に関して面談を行なっています。最初の面談では、入院前より服用されているお薬について飲み方や今までの副作用状況について情報収集しています。また、サプリメントなども服用していれば確認し、副作用歴についても伺います。その際、お薬手帳をお持ちになっていると、今までの治療薬の履歴がわかり大変役立ちます。千葉県共用脳卒中地域連携バスの薬剤シートを導入しており、患者の退院時には、この「薬剤シート」を地域医療連携情報に加えています。また、脳卒中以外の患者の転院についてもできるだけ「薬剤シート」を作成しております。薬物療法情報のパトタッチとして、皆様の医療機関の薬剤師にお渡ししていただきご活用いただければ幸いです。



●緩和薬物療法認定薬剤師 高柳倫也



近年、在宅緩和ケアが進んできており、在宅緩和ケアにおける医療の質も向上しています。このことで、在宅で治療を受ける薬剤も複雑化し、知識、技術に高い水準が求められています。そのため薬剤師も積極的に在宅緩和ケアに関わり、薬物療法をサポートすることが重要です。

患者が在宅緩和ケアを希望された場合、どんな薬を使用されていても、投与方法が如何なるものであっても、在宅で継続できる方法を提案し、これを在宅スタッフと連携・共有しています。また、千葉県共用脳卒中地域連携バス計画管理病院協議会（CAMP-S）の薬剤シートに関する業務も行なっています。

CAMP-S = Chiba Alliance Medical Path-Stroke

●NST 専門療法士 並木真貴子



すべての患者の病気療養にとって必要なことは「栄養管理」です。人間にとって衣・食・住が不可欠なように、食=栄養管理は入院中の患者にとっても、当たり前で大事なことです。当院には栄養サポートチーム（NST）があり、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士など様々な職種で構成されています。NSTは、栄養状態が悪くなりそうな患者や、なかなか食事や経管栄養がすすまない患者などを対象に、よりよい栄養管理を実践すべく主治医のサポートをする役割があります。チーム内のNST 専門療法士は、栄養管理に関わる実研修を受けています。チーム活動の中心的役割があり、院内の栄養管理のレベルアップのために勉強会も企画しています。

NST = Nutrition Support Team

●日本糖尿病療養指導士 石村淳



患者に適正な薬物療法が提供できるように、服用薬の副作用も含めてモニタリングを行い、退院までに適正な薬物選択および適正使用の確認と指導を行なっています。また、CAMP-Sの薬剤シートの項目に、糖尿病治療に必要と考えられる項目（病型・合併症の有無など）や入院中の治療経過（薬物選択および変更理由など）、担当薬剤師より患者のコンプライアンスの向上・維持に対するコメント（自宅での薬品管理における提案事項）などを追加した糖尿病地域連携薬剤シートを試験的に発行しています。この糖尿病地域連携薬剤シートが、糖尿病領域における薬-薬連携の一助になれば幸いです。

ICT = Infection Control Team

●感染対策委員（ICT） 岡本剛



当院では他院との連携を図っております。合同カンファレンスにおいて ICT 薬剤師は、自施設での抗菌薬使用状況を集計し、特に広域スペクトラムの抗菌薬、抗 MRSA 薬などの特定抗菌薬の使用状況ならびに適性使用に関する監視体制と現状を紹介しています。各施設にける特定抗菌薬の届出は 100%に近い状況にあり、抗菌薬の適性使用が推進されています。流行りだした痲疹の感染防止対策についても、各施設での経験と対応マニュアルの相互情報から、マニュアルの見直しが迅速に行うことができている。各施設との連携による情報共有の重要性ならびに感染防止対策の質的向上に寄与できるよう、活動を行っております。